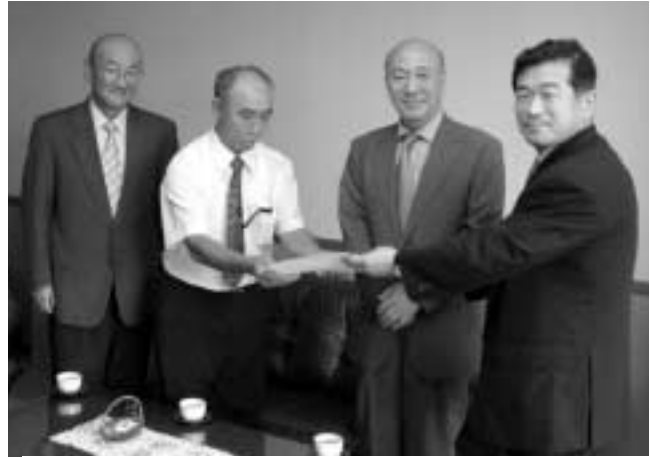


旧縫製会社工場跡に(有)マディが進出

雇用の拡大に期待

昨年秋に閉鎖された草野地区にある旧縫製会社工場に、この度高級ニット製造企業の進出が決まりました。

9月1日に設立された有限会社「マディ」（高橋幸則社長）。村では、この旧縫製会社から閉鎖された工場の寄付を受け、優良企業を誘致しようと、県道沿いに空き工場貸し出しの看板を設置するなどして広く呼びかけてきました。9月12日には山崎・高橋両社長が村役場を訪れ正式に賃貸契約を取り交わしました。



▲契約のため役場を訪れた山崎社長（写真右から2番目）と高橋「(有)マディ」社長（右から3番目）

現在(有)マディでは、借り受けたこの工場を11月操業へ向け準備をすすめています。

村との契約による建物部分の賃借料は年間120万円ですが、村企業立地支援条例による助成で、10年間の土地無料貸与と工場賃借価格の半額補助を受けられます。

有限会社「マディ」はニットに毛織物や合成皮革など新たな素材を組み合わせた商品を製造する方針で、当初は雇用6人程度の予定ですが、将来的には30人から50人の雇用を目指すそうです。

村では昨年飯樋町地区集会所として使われていた建物を株式会社「エヌ・イー・ティ」に工場として貸与、同社を誘致しており、今回の「マディ」の進出は企業立地支援制度制定後2社目となり、今後雇用の場の拡大に期待がかかります。

菅野昌基(宮内)が森の名手・名人に

全国で100人 県内では3人



▲森の名手・名人に選ばれた菅野さん

国土緑化推進機構が森にかかわるさまざまな仕事の達人を選ぶ今年度の「森の名手・名人100人」に、菅野昌基さんが選ばれました。

これは、森と共存する知恵や生活技術、文化を後世に伝えていく「もりのくに・につぼん運動」のメインとなる事業で、今回村森林組合の推薦を受け、菅野さんが全国で100人の森の名手・名人に選ばれたものです。

菅野さんは41年間ギョウジャンニク、シドケ、ウルイ、たらの芽などの山菜を自宅周辺の山で栽培。さまざまな栽培方法を研究し、独自の技術を確立させています。

さらに昨年は、村の主催する「クオリティ・ライフ顕彰事業」でも素敵な田舎人として認定を受けている方です。

今回の受賞を菅野さんは「自分なりの方法で自分なりにやっているだけなので、選ばれるとは夢にも思っていなかった」と受賞の驚きを話していました。

現在、菅野さんは中国蒙古地方原産の「韃靼そば」の栽培に取り組んでいるそうで、今後いろいろな植物の栽培方法の研究に意欲を燃やしています。